



## 3.すべての人に健康と福祉を

### 「サステイナブルキャンパスプログラム」始動

慶應義塾湘南藤沢キャンパス(SFC)は、SFCの全ての部門(総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、政策・メディア研究科、健康マネジメント研究科、湘南藤沢中等部・高等部)が協働してサステイナブルなキャンパスの実現を目指す、「サステイナブルキャンパスプログラム」を始動しました。プログラムでは、それぞれ「資源循環」、「自然環境」、「カーボンニュートラル」、「健康と地域」、「食と農」をテーマとする5つのプロジェクトと、湘南藤沢高等部で取り組まれてきた環境プロジェクトが、相互に連携しながら進められています。

#### 2023年度に実施した主な活動例

- 古紙回収の開始、学内カフェでのリターナブル容器の導入
- キャンパス内の生物相モニタリングと侵略的外来種の除去
- 営農型太陽光発電のSFC内外への導入可能性の検討
- 株式会社スタジオスポビー(<https://spoby.jp/index.html>)が開発したエコライフアプリ「SPOBY」を用いた行動変容実験
- 遠藤・御所見地区における米と野菜の生産
- 活動をまとめた冊子の作成

### 市民公開講座「一人ひとりの人生と共に歩む予防医療を～予防医療のアップデート～」開催

2024年1月21日、薬学部は、第3回がんプロフェッショナル研修会 市民公開講座「一人ひとりの人生と共に歩む予防医療を～予防医療のアップデート～」を開催しました。

講座はオンデマンド配信され、2023年に拡張移転した慶應義塾大学病院予防医療センターのプロジェクトの紹介などを通して、「健康格差」を生まないための予防医療への理解を深めました。

### 市民公開シンポジウム「再生医療の今、そして未来」開催

2023年10月14日、慶應義塾大学病院臨床研究推進センターは、市民公開シンポジウム「再生医療の今、そして未来」を開催しました。

再生医療等製品は、有効な治療方法が存在しない難病を治療できる可能性が期待されており、日本でも多くの研究者が実用化に向けた臨床試験や病院体制の整備等を進めています。慶應義塾大学病院でも、iPS細胞を用いた臨床試験の実施や再生医療等製品の原料として必要な細胞を製薬企業等へ安定的に供給するための仕組みづくりに取り組んでいます。本シンポジウムでは、第一線で活躍している研究者を招き、最新の再生医療についての講演と、慶應義塾大学病院での取り組みを紹介しました。

### 藤沢市と地域保健活動推進に関する協定を締結

慶應義塾大学看護医療学部と藤沢市は、地域保健活動の推進に向けて継続的に連携を図るため、2023年4月1日付で協定を締結しました。

地域の健康課題に関する研究に取り組むほか、地域保健の効果的な活動に向けて、データ分析に基づく課題の抽出と活動計画の立案を行えるよう協働します。さらに、藤沢市に所属する保健師等の人材育成においては、やりがいを持って活動できるよう、キャリアラダーに応じた現任教育を行います。

これらの連携により、持続可能かつ地域の特性を活かした健康なまちづくりの推進を目指します。

### 藤沢市民講座開催

2023年11～12月、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)と藤沢市は、藤沢市民講座(生涯教育講座)を開催しました。計3回の講座を通じて、藤沢市の明るい未来を築いていくための手立てについて議論するとともに、近年、地域づくりのキーワードとして注目されているウェルビーイング(Well-being)への理解を深めました。

第1回「健康で生き生きと働くために：ワーク・エンゲイジメントに注目して」

第2回「健幸(ウェルビーイング)でいるためのコミュニティを考える」

第3回「みんなで築く元気なまち ～アクティブリビング&ウェルビーイング～」

## 第17回桜スポーツフェスタを開催

2024年3月16日、桜スポーツフェスタがコロナ禍を経て5年ぶりに対面で開催されました。

本イベントは、「地域と学生の交流」をテーマに、下田地区で活動する体育会5部(野球部・蹴球部・サッカー部・ホッケー部・ソフトテニス部)の部員が中心となり、日頃の感謝を込めて自主的に企画・運営を行うイベントです。慶應義塾体育会が地域の方々にとってより身近な存在となるよう、体育会ならではの「スポーツ」という切り口から両者の交流を深め、協力的かつ継続的な関係を築くことを目的としています。

当日は、子どもからお年寄りまでスポーツの楽しさを実感できる「シモリンピック」や各部の体験教室、地域の方々によるステージイベントなどを実施し、大変な賑わいでした。



## RENKEI\* ヘルス・ワークショップに参加

2024年3月18～20日、イギリスのサウサンプトン大学の主催で開催されたRENKEI(日英知識経済イニシアチブ研究教育ネットワーク)によるヘルス・ワークショップに、土屋大洋常任理事と大学院政策・メディア研究科博士課程の塾生が参加しました。

3日間にわたるワークショップでは、日英両国のRENKEI加盟大学から集まった様々な分野の研究者がグループにわかれ、特に高齢化に着目して、関連する各自の研究内容を発表しました。健康寿命を延ばし、健康的な社会を構築していくうえでの課題解決に向けて、日英の研究者がどのように連携しうるかについて、活発に議論を交わしました。

\* 日本とイギリスの大学が、双方のナレッジの共有や国際共同研究を円滑に創出するためのパートナーシップ。加盟大学は、慶應義塾大学、九州大学、東北大学、立命館大学、大阪大学、エディンバラ大学、サウサンプトン大学、ダラム大学、ニューカッスル大学、リーズ大学、リバプール大学。

(<https://www.britishcouncil.jp/programmes/higher-education/university-industry-partnership/renkei/about>)



写真提供:サウサンプトン大学、redManhattan Photography

## シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」開催

2024年3月2日、慶應義塾一貫教育校BLS委員会と慶應義塾大学スポーツ医学研究センターは、シンポジウム「BLS (Basic Life Support) 教育の実践と社会的意義」を開催しました。BLSとは、心肺停止または呼吸停止に対してAED(自動体外式除細動器)以外の特殊な医療器具を使用しないで行う一次救命処置のことです。慶應義塾の一貫教育校では、2002年よりBLSの体系的な教育を開始し、小学校から高校の各段階で、心肺蘇生法、AEDの操作方法等の実習を行っています。本シンポジウムでは、教育現場におけるBLS教育のさらなる幅広い浸透を目指し、慶應義塾におけるBLS教育の紹介とBLS教育の意義について講演やパネルディスカッションを行いました。

## 「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」開催

2024年3月9日、「第4回 KEIO SPORTS SDGs シンポジウム2024」を開催しました。2023年度のKEIO SPORTS SDGsの進捗報告、具体的取り組みの共有を行うとともに、『パブリックヘルスの視点から見るスポーツSDGs』、『慶應義塾とスポーツSDGs』という2つのセッションを通じてKEIO SPORTS SDGsの新コンセプトを共有し、持続可能なスポーツの新たな価値について考え、多様なステークホルダーとの連携を深めました。本シンポジウムには200名以上の申し込みがあり、セッションの討論では、参加者からの質問を取り上げながらモデレーターと演者との間で活発なディスカッションが行われました。

KEIO SPORTS SDGs: <https://sportssdgs.keio.ac.jp/>



講演ごとに皆で立ち上がって拍手し、座位ブレイク(座りっぱなしを中断)している様子

## 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 開催のシンポジウムに塾生会議のメンバーが登壇

2024年3月29日、「国連大学SDG大学連携プラットフォーム(SDG-UP)」(<https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>)の参加大学とサステナビリティの取り組みについて議論を行うシンポジウムが、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) により開催され、SDGsの達成に向けた学生主導の取り組みに関するパネルディスカッションに、塾生会議のメンバーが登壇しました。塾生会議の概要について紹介した後、「2023塾生会議」が行った最終提言のうち、①地方出身学生支援のためのイベント「よる食堂」の開催、②教科書の電子化・サブスクリプションの導入について発表しました。

企業から参加したアドバイザーからの助言や、参加者からの質疑を受け、活発な議論が交わされました。

